

2021
SOKA
BEST

草加市出身のパラリンピアン

高橋和樹選手・峠田佑志郎選手

9月20日号

東京2020パラリンピック
ボッチャBC3・混合ペアで

銀メダル
取得



10/4 草加市民栄誉賞特別賞を授与（左から峠田選手、高橋選手）

12/5、新田西文化センターで、両選手の地元清門町会の皆さんが両選手をお祝いしました。（右）同町会作成の手作りポスター



昨年の振り返りと2022年の目標を伺いました。



高橋選手

昨年は、メダル獲得に向けて続けてきたことが形となり、支えてくれた皆さんへの恩返しができ、嬉しい年になりました。

2022年は、メダリストとして恥ずかしくないよう、一つ一つの大会で結果が残せるように日々の練習に励んでいきます。

昨年の貴重な経験は、人生のターニングポイントとなっています。コロナ禍でも大会を開催していただいたこと、競技が継続できたこと、支えてくれた皆さんにたくさんの感謝を感じた1年でした。

2022年は、競技と併せて様々なことに挑戦する年にしたいです。



峠田選手

プロフィール

高橋和樹（たかはし かずき）

1980年生まれ。清門出身。㈱フォーバル所属。高校2年生の時に柔道の大会で脊髄損傷の大怪我を負う。2014年から東京パラリンピックを目指し、障がい最も重いBC3クラスでボッチャを始める。競技歴2年で世界選手権大会において日本人初の2位、リオデジャネイロパラリンピックにも出場。2021年に東京パラリンピックで、峠田選手と共にBC3・混合ペア銀メダルを獲得（BC3クラスでは初のメダル獲得）。

峠田佑志郎（たおだ ゆうしろう）

1987年生まれ。清門出身。草加高校卒業。草加かがやき特別支援学校教諭としてボッチャの指導活動中に高橋選手と出会う。BC3クラスのみ認められている「選手の指示でランプ（投球器具）の向きや長さを調整する「アシスタント選手」として高橋選手と共に数々の大会に出場。2019年に東京パラリンピックを目指すため教員を退職。競技歴は高橋選手よりも長くコーチとしての役割も果たしている。

広報「そうか」
で振り返る

2021年 草加ベストセレクション

2021
SOKA
BEST

東京2020オリンピック
聖火リレー

8月5日号



7/7 10人のランナーが草加松原を走り抜け、聖火をつなぎました

2021
SOKA
BEST

市政
共生社会への取組

10月5日号

9月27日

草加市手話言語条例・草加市障がいのある人のコミュニケーション条例

12月5日号

12月20日

草加市パートナーシップ宣誓制度

人権・福祉の両面から共生社会への取り組みを推進

